

第 14 号

熱田高同窓会報

発行

愛知県立熱田高等学校

同窓会事務局

TEL(052)652-5858

FAX(052)654-4874

同窓会ホームページ

URL: <http://www.atsuta.gr.jp/>

熱田高校ホームページ

URL: <http://www.atsuta-h.aichi-c.ed.jp/>

第 64 回生 入学式を迎えて



まもなく六十五周年…

同窓会会長 佐々木 元彦

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

毎年三月と四月は別れと出会いの時であります。第六十一回卒業証書授与式は、三月一日、厳粛にして品格のある落ち着いた環境のもと挙行され、三百十七名の卒業生を同窓会にお迎えすることができました。これから学業を修め、社会に旅立たれ、大いなる活躍が期待されます。自己実現に向けて邁進してください。また四月五日、希望に胸膨らませた新入生全日制三百六十名・定時制四十四名が本校の門をくぐりました。

今春の定期人事異動により、第十六代校長小林整次先生が、愛知県教育委員会教職員課主幹としてご栄進されました。小林校長には、熱田高の伝統継承のため、より落ち着いた学習環境づくりに日々ご尽力を賜りました。一方、同窓会へは、八月の戦後七十年を母校で語ろう「ホームカミングデー」、十二月地域再生活動「さわやかサッカー教室」の開催に際し、大変お世話になりました。これからの小林校長の一層のご活躍をご祈念申し上げます。

新たに、第十七代校長北角尚治先生をお迎えすることとなりました。北角校長は、本校二十一回卒業生で初の本校卒業生校長をお迎えすることとなりました。

母校への赴任は、卒業生グループやPTAの皆様からのプレッシャーもあろうかと思えます。同期生や同窓会の皆様方、より良い学習環境づくりのために物心両面の応援をしてまいりましょう。

平成二十九年、熱田高校は創立六十五周年を迎えます。歴史は脈脈と築かれ続け、伝統を育て続ける意義深い周年記念です。今秋十月、その準備のための創立六十五周年記念事業実行委員会を立ち上げ、日程や諸行事を決定してまいります。

会員の皆様方、横軸と縦軸の交流を深めるため、同期会の開催促進と部活動OB総会の開催促進に関し助成しております。ぜひ同期会幹事並びに部活動代表の皆様、この実現に向けて一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

これからも、粘り強く「運動場の人工芝化運動」、老朽化した「校舎建て替え運動」を働きかけ、よりよい学習環境づくりと伊勢湾台風の被災地高校として風水害や震災に強い環境づくりを進めてまいります。

おわりに、会員の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申しあげご挨拶いたします。

平成二十八年五月吉日

四十年ぶりの熱田高

校長 北角 尚治



本年度、第十七代校長として着任いたしました。

四十年前に熱田高校を卒業しました。二十一回生です。

離任式・入学式・始業式と続く年度当初の式典で流れる校歌を自然に歌うことが出来たとき、母校へ戻ってきたという思いを新たにしました。

毎朝、伝馬町の駅から宮町界隈を通り、七里の渡しを横に見て、大瀬子橋を渡って熱田まで歩いていきます。学校の前にショッピングセンターができたり、堀川周辺がきれいに整備されたりしていますが、それ以外の町並みは四十年前とほとんど変わっていません。懐かしさや安心感とともに、熱田高校が地域に支えられている学校であることを改めて実感しています。

校舎に入ると、昇降口や教室は四十年前とほとんど変わっていません。エアコンが入ったり、耐震工事は済んでいるものの、建物自体は昔のままです。実に懐かしさ感慨深いのですが、老朽化は気になります。一方、教職員は若い層が増え、活気ある雰囲気が出ています。時代の変化と

ともに、教育現場も様々な対応が求められています。その中で、学習活動、進路指導などにおいても、きめ細やかな指導体制が整いつつあります。また、進路実績も着実に成果をあげてきています。

部活動では、県の一部リーグで活躍するサッカー部を始め、ウインターカップで県ベスト4に入ったバスケットボール部女子や、東海大会に出場した陸上部などが顕著な成果をあげています。今年度のインターハイ予選でも、すでに卓球部・柔道部・陸上部などが県大会出場を決めています。また、吹奏楽部・天文部・物理部などが様々な賞を受賞しています。始業式で生徒に伝統について話をしました。例えば、歌舞伎は伝統芸能であるが、新しいものを意欲的に取り入れている。また、伝統あるブランドは洗練された品格を持っている。——こんな話から、六十年を超え、伝統校となった熱高生は進取の気概を持ち、洗練されていかなければならないと生徒たちに話しました。このような思いで、臨んで参りたいと思います。同窓会の皆様方には本校の教育活動の御支援をよろしくお願いいたします。



心から感謝—同窓会の皆様へ

前校長 小林 整次



このたびの異動により、愛知県教育委員会教職員課勤務を拝命しました。佐々木元彦会長様をはじめとする同窓会の皆様方には、この二年間様々な面で温かな激励と御支援をいただき、たいへんお世話になりました。心から感謝申し上げます。その一方で、二年間という短い在任期間でありましたが、同窓会の皆様方の御協力により、心に残る素晴らしい事業に携わることができたことは、私自身にとっても大きな喜びでした。

全日制の事業として印象深いのは、本校にとって初めての試みである「ホームカミングデー」の実施でした。戦後七十年を契機とした企画であり短い準備期間でしたが、同窓会準備委員会の皆様の精力的な活動ぶりに組織力の高さを実感しました。高校卒業後、母校を訪れる機会は少ないためか、当日ご出席いただいた第一回から第十回卒業生を中心とする卒業生の皆様には、懐かしさもあり好評のようでした。

校長室に展示した当時の卒業アルバムや校誌『熱田』に見入りながら昔

話に花を咲かせる様子に思わず嬉しくなりました。また、在校生たちは、随分年が離れた先輩方を案内しながら屈託なく明るく応対できており、これも同じ母校の卒業生という絆を感じればこそと思います。

定時制の事業としては、「定時制開設五十周年を祝う会」の実施でした。同窓会の御支援により、給食棟西の「日だまりファーム」の一角に、ハナミズキを記念植樹し、立派な記念プレートも添えることができました。学校敷地内を歩いていても定時制の記念物が見あたらないことに気づいておりましたが、日だまりファームと併せて定時制の生徒達の心安らぐ居場所ができました。

現在、熱田高校の生徒たちは学校行事や日常の折節に、自分たちの呼びかけで校歌を歌います。高校三年間、四年間を単なる通過点ではなく、かけがえのない青春時代を過ごした証として感じられるからこそ、彼らは自発的に歌うのだと思います。

こうした素晴らしい伝統を築き続けている熱田高校に勤めることができ、同窓会の皆様には重ねて感謝申し上げます。

最後になりましたが、今後の熱田高校同窓会の生々発展と同窓生の皆様の御活躍を心からお祈り申し上げます。

熱田高校の今

カリキュラムの方針

教務主任 辻村 博

平成二十五年度入学生より現行の新学習指導要領が実施され、新教育課程の初めての卒業生を今年の三月に送りだした。

現在の生徒はほとんどが四年生大志望である。そのため第二学年より、理系・文系の二類型に分け、進路実現しやすい環境を整えている。また、第三学年では、文・理系ごとに幅広い選択科目が用意されており、進路実現をしやすいカリキュラムになっている。本校の特色の一つに、学校設定科目で、理系では、理系数学、文系では、文系数学や基礎数学、そして総合理科や英語総合が設けられ、国公立大学や私立大学の多様な入試にも対応できるようになっている。さらに、基礎基本の定着をはかるためにテストも導入され、その後のクラス担任との面談を通じ、学習計画の見直しや学習目標の設定をしながら、自らの進路を見つめ直す機会を設け、モチベーションを高く保ちながら高校生活を過ごすことができるようになっていく。

最後に、高校生活のベースはやはり授業である。教職員一丸となり、授業改善を進めつつ、熱高生の持てる能力を開花させたい。



生徒会活動の近況報告

特別活動推進部主任 山中洋一

部活動の活躍について

現在、部活動は十七の文化部(同好会を含む)、十の運動部があり、放課後を中心に活動をおこなっています。運動部では、昨年度総合体育大会で、サッカー部の県ベスト4を始め、数多くの部が愛知県大会に出場しました。また、女子バスケットボール部が、選抜優勝大会で強豪ひしめく愛知県大会で四位に、陸上部が新人戦で、数年ぶりに東海大会出場という輝かしい成績を収めました。

県大会に残念ながら出場できなかった部も、日々上位の大会出場を目指して頑張っています。

文化部においても、天文部・物理部が資源循環型ものづくりシンポジウム二十周年記念特別賞を共同受賞するなど、地道な活動が実を結んでいます。

第六十三回熱高祭について

「柰を越えて魅せろ、熱高生魂」をスローガンとして、昨年九月十一日から三日間、熱高祭が開催されました。

文化部では、土曜日の一般公開日に多数の一般客を迎え、体育館ステージでの熱のこもった劇など、来場者の目を楽しませていました。

初日に予定していた体育祭は、台風のため、翌週の月曜日に延期となりましたが、晴天に恵まれ、競技に力がいいる中、大きな怪我もなく無事に終えることができました。

閉会式後には、恒例の全校生徒による大合唱で、盛り上がったと同時に、熱田高校が学年の柰、ブロックの柰を越えて一つになった瞬間であったと思います。

今年の熱高祭も昨年以上に素晴らしいものとなるよう、生徒会・各委員会を中心に頑張って行こうと思います。

合唱祭について

昨年度、名古屋市教育局センターが外壁工事のため、会場としては使用できないと連絡が入り、急きよ学校で合唱祭を行うことになりました。

以前は学校の体育館で行っていたという話も聞きますが、一月の末という時期を考えれば、エアコン・ストー

ブを入れてもさすがに寒く、防寒着を着込んで震えながらのスタートになりました。音響設備が整っていないにもかかわらず、金賞を取ったクラスは、昨年と比べても全く遜色のない歌声で皆を魅了し、大成功で終えることができました。



合唱祭



文化祭



体育祭

進路指導部の当面する課題
進路指導主任 都筑秀夫

熱田高校は部活動と学校行事が活発です。この伝統は今でもしっかりと受け継がれておりよろこばしい限りです。しかし、学習・進路の面においてははどうでしょうか。先輩方が在籍されていた頃と比べて、学習時間は少なくなっているのではないのでしょうか。三年生の後半にならないと進路決定の本格的な行動に移せない。進路意識の希薄な生徒も近年増加しているように思われます。低学年のうちから進路意識の高揚を図るために、「スタディーサポート」という基礎学力と学習習慣の定着度を診断する学習教材を新たに導入しました。

近年、大学入試の制度はめまぐるしく変化し、AO入試・推薦入試の拡大や一般学力入試の多様化・複雑化など我々教員でも把握しきれないようになっております。大学入試の結果予測も読みにくく合否判定がなかなか難しい状況になっています。それゆえ、生徒の進路選択もとにかく早く決めてしまいたいという気持ちが強くなり、国公立大学を目指すだけの学力をもちながら、私立大学のAO入試や推薦入試に流れてしまいう生徒も増加してきているようです。低学年のうちから進路意識を高め

過去 3 年間の国公立大学合格者数

平成 2 7 年度			平成 2 6 年度			平成 2 5 年度					
現役生	28	過年度卒生	9	現役生	15	過年度卒生	9	現役生	25	過年度卒生	9
名古屋工業	1	名古屋工業	3	名古屋	1	名古屋	1	愛知教育	2	名古屋工業	3
愛知教育	3	三重	1	愛知教育	1	名古屋工業	1	豊橋技術科学	1	岐阜	1
岐阜	1	富山	1	岐阜	1	愛知教育	1	岐阜	1	三重	1
三重	1	筑波	1	三重	1	三重	1	三重	4	鳥取	1
信州	1	広島	2	山梨	1	静岡	1	富山	1	愛知県立	1
富山県立	1	山口	1	富山	1	一橋	1	金沢	1	名古屋市立	1
福井	1			香川	1	岡山	1	福井	1	青森公立	1
室蘭工業	1			宮崎	1	愛知県立	1	室蘭工業	1		
鳥取	2			愛知県立	3	下関市立	1	宇都宮	1		
愛知県立	4			名古屋市立	1			鳥取	1		
三重県立看護	1			都留文科	1			愛媛	1		
静岡県立	1			新潟県立看護	1			琉球	1		
都留文科	1			長崎県立	1			愛知県立	3		
富山県立	4							静岡県立	1		
福井県立	1							静岡文化芸術	1		
秋田県立	1							都留文科	1		
京都府立	1							山梨県立	1		
兵庫県立	2							富山県立	1		
								会津	1		



学習習慣を確立させること、入試の状況を的確に分析して合否予測をたて、生徒が少しでも高い目標に向けて最後まで頑張る体制を確立することが熱田高校の進路指導の当面する課題となっています。昨年度は、国公立大学合格者数三十七人（内現役二十八人）と、最近十数年のなかでも最

多の合格者数を出すことができました。この勢いをこれからも持続していきたいと考えております。

資料として「過去三年間の国公立大学合格者数」「過去三年間の卒業生の進路別実数」「過去三年間の進学率と地元主要私立大学の合格者数」を載せておきます。



過去 3 年間の卒業生の進路別実数

年度	4 年制大		大学 校	短期 大学	専門 学校	就職		家事 従事	その 他	浪人	合計
	国 立	私 立				公務 員	民間				
27	27	207	1	12	37	1	2	0	3	27	317
26	11	207	0	19	50	2	3	0	1	24	317
25	20	215	0	12	37	2	1	0	3	24	314



過去 3 年間の進学率と地元主要私立大学の合格者数

年度	大学 (%)	専門 (%)	南山	愛知	名城	中京	愛知 学院	愛知 工業	中部	愛知 淑徳	金城 学院	椋山	国公立	浪人
27	77.6	11.7	13	49	47	77	87	12	32	51	9	10	28	27
26	74.8	15.8	35	80	32	48	100	14	38	62	12	9	15	24
25	78.7	11.8	33	40	46	41	47	13	28	45	13	30	25	24

定時制課程の今

教頭 佐野好宏



「学び直し」と「共生」。現在の熱田高等学校定時制課程を象徴するキーワードだと思います。中

学時代に様々な事情で登校できなかった生徒が、新たな環境で学校生活を謳歌しています。具体的な例をあげれば、昨年度の一年生四十名のうち六名の生徒が皆勤で、「学び直し」を象徴する数字だと思います。

また、「共生」を象徴する制度が外国人生徒教育支援員ではないでしょうか。この制度は、多文化共生の地域社会づくりを進めていくことを踏まえ、これに応じた教育環境の基盤整備を進めるために愛知県が定めたものです。本校には、ポルトガル語・タガログ語・韓国語・ウルドゥー語・ヒンドゥー語の四名の外国人生徒教育支援員に助けて頂いています。

こうした状況の中、生徒たちはいろいろな問題を抱えながらも頑張って学校生活を送っています。そうした様子がよくわかるのが、毎年六月にホームルームの時間などを利用して書いてもらう生活体験作文で、生徒たちが様々な問題や苦勞を抱えな

がらも、前向きに頑張っている様子が伝わってきます。

昨年の十月四日に名古屋市立大学さくら講堂で開催された第五十五回愛知県定時制通信制生徒生活体験発表大会では、本校の代表として寺西清子さんが「未来は変えられる」という題で発表し、早川賞を受賞しました。彼女は学歴への強いコンプレックスを感じながらもその反面には学校への強い思い入れがあったようです。そして、「娘が親になった今だからこそ、改めて学ぶことの大切さを娘に伝えることが孫の幸せにも繋がることを願い、『最初から始めてみよう』と決意したと話してくれました。卒業生を送る会では、卒業を間近に控えた生徒一人ひとりが「卒業生のことば」としてその思いを語ってくれます。昨年度も多くの生徒が、「友達や先生に支えられながらあきらめずに最後まで頑張つてよかった」と語ってくれました。余談ですが、教員全員で、「心のプラカード」を躍ったのも好評でした。

また、昨年度実施したアンケートでも、「熱田高校定時制に入学して良かったと思う」という質問に対して、八割以上の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答えていました。これからも、多くの生徒が「熱田高校定時制に入学して良かったと思う」「熱田高

校定時制で頑張つて良かった」と答えてくれるような学校でありたいと思っています。

第 48 回生 卒業生を送る会



部活動便り

第五十四回定期演奏会

吹奏楽部 部長 可知 由佳里

第五十四回定期演奏会は、平成二十七年三月二十六日(土)瑞穂文化小劇場で開催し、二百五十名ほどの入場者がありました。

コンクールや熱高祭、地元の依頼演奏など一年を通じて充実した活動を行っています。主催者が私たち

吹奏楽部である定期演奏会は特別です。選曲だけでなく、台本の作成、演出の構想、パンフレットの作成、協賛広告の依頼など演奏会に関わるすべてを部員が役割を分担しています。準備は大変で思うようにいかないことばかりでしたが、演奏会を終えたときは達成感で満ち溢れていました。第五十五回定期演奏会は平成二十八年三月二十五日(土)瑞穂文化小劇場で行う予定です。

ぜひ来てください。

吹奏楽部員 全員集合



スポーツ愛知 2015年(平成27年)12月7日(月曜日)

笑った 泣いた ぽろぽろ

グラмпスの技学ぶ

熱田高 コーチらが子ども指導

地域貢献とサッカー振興を目的とした「ふれあいサッカー教室」が五日、名古屋グランプス クールのコーチの指導で、

サッカーを楽しむ子どもたち＝名古屋市熱田区千代で

同区を中心とした幼児から中学三年生までの百二十二人がサッカーを学んだ。

熱田高サッカー部とそのOB会が初めて企画。同校OBでグランプス顧問の福島義広さん(左)の協力で、チームスクールのコーチを招くこと。年齢ごとに四つのグループに分かれて練習があり、部員がサポートした。

参加した子どもたちはコーチの指導を受けながら、シユートやドリブルの練習などに取り組んだ。熱田区の船方小五年の服部翔天(しやうま)君(右)は「ボールタッチなどの細かい技術を習ってプレーに生かしたい」と話した。

今後も継続してサッカー教室を開く予定。サッカー監督の青木宏憲さん(左)は「部員にとっても「教える」といういい経験になる。熱田区のサッカーを盛んにできれば」と意気込んでいる。(村松秀規)

ふれあいサッカーひろば

「ふれあいサッカー教室 IN 熱田高校」を開いて

サッカー部長 畠山 元汰

平成二十七年十二月五日(土) 晴

れ。「ふれあいサッカー教室 2015 IN 熱田高校」で僕たち高校生が中心となり、司会進行から参加した幼稚園児や小学生、中学生への指導のお手伝いをしました。

サッカー教室には熱田区内を中心に、地域の子供達が大勢参加して、

楽しい時間を過ごしてもらおうことが出来ました。

この活動を通して地域の方々を支えられて熱田高校サッカー部の活動ができていくということを実感しました。そして、僕たちも今回参加した幼稚園児や小・中学生達の目標になれるよう、初心に帰って、日々の練習に課題をもって取り組み、サッカー技術だけではなく、人間として成長していきたいと思っています。

「竹ECO活用」の断熱効果

天文部長 加藤 充倫

近年、全国的に荒れて放置された竹林が問題になっている。そこで、その竹の有効活用を目的として、昨年、天文部は本校屋上に竹を敷設し、夏の間、教室内の気温を測定して竹による断熱効果の実証実験に取り組んだのでその結果を報告する。

※ 竹を敷設した教室の方が敷設していない教室に比べて、 $0.7 \sim 1.9$ 度室温が低くなることが確認できた。

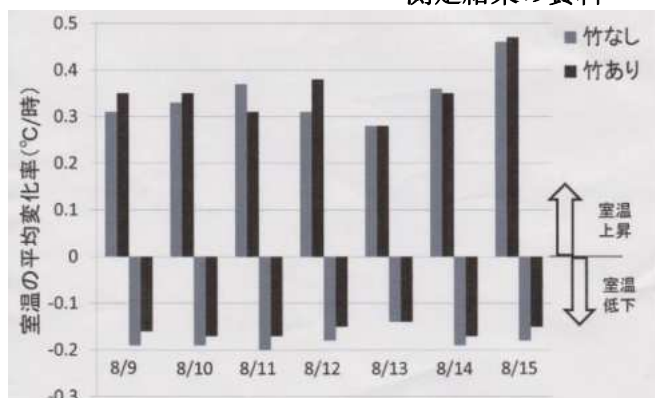
※ 室温差が大きくなり、竹の効果が目著しに表れるようになるのは、気温が上昇する日中ではなく、むしろ気温が低下する夜から明け方にかけてである。

「竹あり」の室温が「竹なし」の室温より低くなるのは、竹が日射を遮るからである。しかし、室温の平均上昇率は、「竹あり」の方が大きいため室温差は小さくなっている。

これは、竹の持つ空気層が保温の役目をしていると考えられる。一方、室温の平均低下率は「竹なし」の方が大きくなった。これは、コンクリートの方が比熱が小さく、冷めやすいことに関係していると考えられる。

「竹あり」の教室は、保温効果のため低下率は小さいが、そもそも室温が低い状態で維持されていて、温度の

測定結果の資料



屋上の敷設現場



下がり始めが早いいため、室温差がおきくなる。

がんばれ熱高生

今回は四人の先生方に原稿を依頼しました。本校で伊藤武和先生は、十三年間教鞭をとられ、退職後は私立高校で教員生活を送られました。平川隆先生も七年間熱田に勤められ、現在、市立高校で講師をしていらつしやいます。熱田高校同窓生の仲辻彰人君(二十五回卒)は、今年宮中学校の校長として、伊藤紀子さん(三十回卒、旧姓鬼頭)は、比良西小学校の教頭として赴任されました。先生方には、熱高生のための心の内を語ってもらいました。

戦後七十年、過ぎし日々

旧職員 伊藤武和(数学科)

もうすぐ後期高齢者になる。「光輝

高齢者」であり

たいと思う。



私が生まれたのは日米開戦の前年であった。住んでいたのは

現在の三重県伊賀市。山の中で工場もなく戦争の影響が比較的少ない地域で、空襲警報は何度か出たけれども、実際の空襲には遭わなかった。微かな記憶の中に夕方東の空が赤くなり、遠くの街が空襲で燃えているらしかった。ただ、終戦の日のことは、割とはっきり覚えていることがある。ラジオの前で母の両脇に姉と私が正座していたという光景である。これが、

「玉音放送」の時の事だということ。は大きくなってからわかったことだ。

終戦の翌年、津に引越した。住む家はあつたけれど、天井は破れ、壁は崩れていた。周り是一片焼夷弾で焼け地だった。私にとっては戦後の食糧難は鮮明である。芋と南瓜ばかり食べているという印象だ。ほとんどの物は配給で、足りない分は焼け土を掘り返して畑にした。草むらから食べられる草を探していた。僕にはその見分けがつかなかったけれど、母はそうやって食事の足しにした。塩が足りないので一キロほど離れた海岸へ海水を汲みに行った。今から考えると卵や肉を口にすることはほとんどなかった。肉といえば「鯨」。病気になると思えば「鯨」。大学に入った年から六十年安保闘

争が始まった。クラス討論を積み上げて、ストライキを行い、街頭でビラを配ったりデモに明け暮れたりした。その時の総理が岸信介。我々は「日米安保は戦争への一里塚」と言っていた。大学を出て教員になった。

教員の合言葉は「教え子を再び戦場に送らない」であった。岸の孫にあたる安倍総理の時代になって、戦争への距離が「一里」でなく「一尺」くらいになってしまいうさだ。そうならないように、老骨にムチ打って集会に、デモに明け暮れる今日この頃である。

いつまでも青春

旧職員 平川 隆(英語科)



高校受験の時、通学には一番近い学校であるにも拘わらず熱田はあまり意識の中になかった。中学の国語の授業でほればれするぐらい字が上手な先生が市立高校の出身と知り、自分もその学校に通いたいと思ったからだ。私は大学卒業後、民間会社に短期間勤め退職した。パリを含め二年間フランスの地方都市に滞在した経験を持つ。よってストリートで教壇にたたれる大多数の先生に比べ、かなりの回り道を

している。

熱田では七年間お世話になった。

一〇三、二二〇、三〇四、三二〇、三〇九、一〇六、二〇五を順に担任をさせていただいた。おおらかな雰囲気、先生に寄り添ってくる生徒が多かった。一年目の文化祭は「こんなのはじめて」というタイトルで正面に恐竜を配置した。二年目は「クレジーフォアユー」というミュージカルを上演した。また合唱コンクールで「ひとつの朝」の指揮をしたのも良き思い出。六年目は強烈な思い出がある。五月中旬三時間目の体育の授業で、整列時に意識を失った生徒がそのまま帰らぬ人となったのだ。

過日六十年代から今日までの懐メロ特集をBSで見た。好きな曲は高校生・大学生、せいぜい二十代後半までに集中してしまう。「なごり雪」

「学生時代」「二十二才の別れ」それだけ多感な時期だったからこそ今でも口ずさむのだと思う。年齢とともに熱き血潮が沸き立つ機会が少なくなるのが残念でならない。

県立最後の学校の修学旅行で余興の一コマ「あなたの寿命は」との問いに七十五歳と答えた。平均寿命には届かないが、若くして亡くなった生徒の無念を思えば十分過ぎるほど生きたことになる。その間際までは「いつまでも青春」をモットーに人生を全うしたいと思う今日この頃である。

出会いを大切に

名古屋市長立宮中学校

校長 仲辻彰人(二十五回卒)

今年度から熱



田区宮中学校に
校長として赴任。
縁あって母校で
ある熱田高校の
学校評議員とな

りました。久しぶりに熱田高校の正門を入ると、校章である「あ」文字が昔と変わらず私を迎えてくれました。私の高校生活は運命的な出会いで始まりました。入学式の日、教室で成田稔君と出会いました。成田君とは

中学校時代に砲丸投げを競い合った仲でした。高校では何か新しい部活動に入ろうかと迷っていた私でしたが、彼との出会いによって陸上競技部に入部することになりました。

成田君とは三年間互いに練習パートナーとしてトレーニングに汗を流しました。私は成田君のように二年連続東海大会出場はできませんでしたが、三年間打ち込んできた砲丸投げのおかげで、中学校の体育教師となった昭和五十九年から名古屋市総体教員の部砲丸投げで、十一年連続優勝し、大会記録も樹立することができました。あの日、成田君に会わなかったら、こんな思い出もなかった

と感じています。

高校生活では多くの仲間と出会い、思い出もたくさんできました。熱田高校の自由な校風は私にぴったりで、特に文化祭では仲間たちと大いに燃えました。一年生では、クラスで映画を創りスパーマンの役をやりました。二年生ではバンド演奏でリードボーカルとしてツイストやアリスの曲を熱唱しました。三年生では人形劇を創りました。遅くまで残って話をしたり、休みの日も自主的に集まって準備をしたりしました。どのシーンも青春の一ページとして今心に深く残っています。

先生方との出会いも忘れられません。担任していただいた加藤哲男先生、小倉美津夫先生、水谷丈市先生、陸上部で指導いただいた顧問の外山幸男先生、出井良直先生、教育実習の教官をしていた山田守和先生、先生方には、大変お世話になりました。水谷丈市先生と三〇九の仲間との交流は今も続いています。

早いもので卒業して三十七年が経ちました。高校生の時には考えもしませんでしたが、振り返ってみると人生にはたくさんの出会いがあり、出会った人との思い出によって、人生はより深く、楽しくなっていくと感じています。熱高生の皆さんには高校生活での出会いを大切にして、

今しかできないことに挑戦してほしいと願っています。私も、これから始まる新しい出会いに心を躍らせながら、校長の職責を果たしていきたいと思っています。



309 のクラス会 水谷丈市先生を囲んで 2013.6.15

出会いは偶然でなく必然

名古屋市長立比良西小学校

教頭 伊藤紀子(三十回卒)



「今度の練習は熱田だから、コーチが絶対に応援にくるように」と息子に言われ、久し

ぶりに熱高のグラウンドへ行きました。そこには懐かしい光景がありました。そして高校時代を思い出しました。

高校入学二日目「野球部のマネージャーをやりたい」と《野球部》と札のついた部屋の前で待っていました。だが、そこは定時制の部活動室前。途方に暮れていた私に「熱田高校と言ったらサッカー部。そんなことも知らなかったの？」と声を掛けてくださった森本先生。雨上がりの泥だらけのグラウンドで先輩達は走っていました。ボールを蹴っているというより、ぶつかり合っているその迫力に圧倒されました。そして、そのまま入部を決めました。この出会いは、「出会い」の大切さを感じた一つです。あの時、あの場所になければ、もしかしたら私は、違う高校生活を送っていたかもしれません。

サッカー部の三年間には、いろいろなことがありました。部員数が減って、伝統が途絶えてしまうのではと、真剣に話し合ったことがあります。旅行後に大会がある為に、修学旅行先で、朝練習をしたときもありました。昼休みに何十本もグラウンドをダッシュしたときもありました。私は、側らで応援をしているだけでしたが、熱心な部員の一人でした。あの「出会い」のお陰で最高の高校生活を送ることができました。

私は、「出会い」「偶然」ではなく「必然」なものだと思います。その後、熱高生でよかったと思う「出会い」が多くありました。

現在、教員をしている私には、とても尊敬している先生がいます。ある日、先生が熱高の大先輩と分かりました。とても誇らしい気持ちになりました。娘が成人して新しい世界に飛び込むことになりました。このとき、助けてくれたのは熱高の同級生でした。不安が一気に吹き飛びました。三十年ぶりの出会いに感謝をしました。

冒頭の息子が、中学生のとき所属したサッカーチームは、熱高の先輩のチームでした。頼りなかった息子を逞しく育ててもらえました。

熱高生の皆さん、まだ実感はないかもしれませんが、皆さんにも熱高生いることが、「必然」なことだったと感じる日がきつときます。楽しみにしててください。「偶然」は「必然」です。熱高での出会いを大切に、毎日を楽しんでください。活躍を、期待しています。



同期会の便り

喜寿を祝う同期会に思う

二回生 中野 道孝

二回生は平成二十七年度に満七十七歳になることから、平成二十七年十一月五日に金山のサイプレスガーデンホテルで喜寿を祝う同期会を開催した。この日は暦では友引で、多くの人の出席を期待したのであるが、出席者は来賓としてご臨席いただいた日比野先生を含めて二十名であった。幹事としてはもう少し多くの人に出席をして欲しかったというのが本音であるが、返信ハガキの内容や電話での対応を聞くと、それぞれ健康や体調の問題を抱えていて、致し方ないかと納得したしだいである。

日比野先生は、九十四歳とのことでしたが、私達同期生と間違える程の若々しさで、ご自身の経験、体験を踏まえて「皆さんは喜寿ということだが、この先、傘寿、米寿、卒寿など先は長い、何事にも積極的に取り組むという姿勢で頑張つてほしい。」というお祝いと激励の言葉をいただいた。人数が少ないということはスピーチに時間がとれるという点ではメリットであった。出席者の皆さんに

現況などについて二、三分のスピーチをお願いした。それぞれの人のスピーチを拝聴すると、八十歳のゴールドパンツを目指してサッカーに励む人、テニス・水泳・ゴルフ・囲碁・絵画などに打ち込んでいる人、バラの栽培を楽しんでいる人、現職の時に担当した建設現場を奥さんと改めて訪れている人、現在も演劇に取り組んでいる人等多方面に亘り元気でハツラツとして活躍されていた。このような会に出席する人は、経験的に元気な人が多いということは知っていたが、それでも驚き刺激をうけた。

今年は戦後七十年という節目の年であるが、私達は昭和二十年に当時の国民学校に入学し、戦争を知る最後の世代と言えるかもしれない。

成人後は我が国の経済成長と軌を一にして、平和で恵まれた時代を過ごしてきた。また、平和のありがたさ、大切さも知っており、これからも平和な国であつて欲しいと願っている。

満七十七歳といっても、日頃はあまり意識することもないが、あらためて考えてみれば、社会的には立派な後期高齢者であり「遙けくも来たるものかな」と感慨一入のものがあふる。しかし、このところ高齢者による交通事故が多発しているとか、社会保障費が増加しているというマイナ

日比野文一先生を囲んで 2015.11.5



ス面の話を聞くと、何となく寂然としないところもあるが、近い将来には、自動運転の車も完成するし、iPS細胞による医療の発展も期待できる。先生の激励の言葉や出席した同期生から貰った刺激や元気を大切に、前向きに頑張っていこうと気持ちを新たにしたい。

旧友と語り合っていると、年齢を忘れ、つい高校時代に戻ったような気持ちになる。これが同期会の良さであろうか？校歌を合唱する前に「レーニングも兼ねて『高校三年生』を全員で合唱した。

最後は万歳三唱によって熱田高校の発展と出席者の健康を祈念した。そして、今回は日比野先生の白寿と私達の傘寿のお祝いで、会うことを約束して散会した。

文末になりましたが、本会の開催に当たって、同窓会からご支援いただきましたことに御礼を申し上げます。

第六回生同期会に思う

六回生 道清吉美

私達(昭和三十六年卒)は、平成二十七年十一月二十二日に、二十二名の参加をえて、六回生の同期会を開催しました。この会では、定番の飲食中心の親睦会に留まらず、文化的付加価値のついた会にすれば、参加者も増えるだろうと「名古屋城の史跡めぐりと堀川下り」を企画しました。プランはこうです。名古屋城正門に集合して城内及びその周辺史跡(本丸御殿・堀留跡)散歩・・・そして、朝日橋から屋形船で川下り(朝日橋・宮の渡し・名港・納屋橋)と懇親会。旧友相集い、歴史散歩と屋形船で時の流れを語りあう、楽しいひと時を過ごそうと・・・。いいプランだと自画自賛して、その案内を八月十七日開催のホームカミングデーの案内状の紙面をお借りして七月に発送したのですが、遠くは千葉・神奈川・

京都から参加の返事をいただいたにもかかわらず、幹事のミスで屋形船の予約が手遅れで、川下りプランは急きよ中止として、名古屋城とその周辺史跡(美濃路・四間道・五条橋・伝馬橋・納屋橋)に史跡散歩経路を変更し、懇親会場を屋形船から陸のレストランに変更しました。結果的には名古屋城内の歴史散歩が一時間、堀川沿岸の美濃路、四間道の町屋を見ながら約一時間の歴史散歩をして、懇親会場、旬彩の宴「想」にたどり着き、さつそくの乾杯で親睦会の始まりとなりました。皆さん時間に追われ十分満足できなかったのではと、危惧したのでありますが、史跡巡りを歩いてきた影響か、乾杯のビールが美味しそうで安心しました。

反省点、せっかくのいい街歩きなのに、欲張りすぎコースと限られた短い時間のため、時の移ろいを語り合うには、不十分でした。その点は企画のまずさで申し訳なく思っております。しかしながら、歩きながらも久しぶりの旧友との思い出話に花を咲かせ、思う存分旧交を温めることもできました、楽しいひと時を過ごすことができました。機会があれば、もう少し私たちの体力に合った時間的ゆとりをもって、ゆったりとした史跡散歩と川下りをやりたいと思っています。

名古屋城を借景にして 2015.11.22



前回お招きした、恩師のお言葉にもありました「二〇二〇年開催の東京オリンピックまで元気で生きれば、喜寿のお祝いができる。とりあえずは、それまで気力・体力・金力を維持しよう」。当然かもしれないけれど、加齢とともに心身の老化や物忘れは避けられない。「ご本人の病気や家族の介護もあるから、今回で最後によろ」。という声もありました。しかし、元気に集まるときは随時開催しようを基本スタンスにしたいと、私どもは思っています。同じ年の気のおけない仲間と会えることは、幸せなことだと実感しております。

最後に全員で懐かしい校歌合唱。次回の再会を約束して、盛会のうちに中締めとなりました。

同期会を開いて

二十九回生 野崎 時資

五十歳になるのを機に、今まで開催したことなかった同期会を企画しようという話が持ち上がったのは年が明けてのすぐのことです。

連休の中日が参加しやすいのではないかと平成二十七年十月十一日と決定し、キャッスルプラザを仮予約し、ラインやメールなどで繋がっている人に拡散するという方法で参加者を募りましたが、その方法にも限界があり、最終的には熱田高校同窓会のご協力もいただいてハガキ送付や卒業アルバム電話番号に電話をかけてみるという可能な限りの方法で周知を図りました。

先生方にもお声がけをしたところ快く参加のお返事をいただくことができました、同期会当日には先生方九名、男性六十一名、女性七十九名、総勢一四九名という盛大な会を開催できる運びとなりました。高校時代から団結力のある学年だと思っていました、卒業後もそれは変わりなく熱田の強みであると言つていいでしょう。



皆それなりに歳を重ねて見た目は変わった部分があっても、話し始めるとすぐに高校時代に戻って話盛り上がるのはもちろん、今まで話したことがなかった人とも不思議と

集合写真と花束贈呈 2015.10.11



話しができることは同期会の醍醐味だと感じました。

不行き届きな点が多い会の運営でしたが、みなさんのあたたかい協力の下、無事同期会が開催できましたことを幹事一同感謝しております。今回の同期会で一番の武器となったラインですが、現在二十九回生のグループには九十名近くの登録があります。

老眼の進む中スマートフォンを操作してせっかく繋がったご縁です。これを機にこの連絡手段を利用して様々なイベントに活用していけたらと思っています。

同期会の開催案内

十一回生の皆様へ

日時 平成二十八年十月二日

午後一時より

会場 サイプレスガーデンホテル

住所 熱田区金山町一―九―八

電話 (代)六七九―一六六一

発起人代表 中村日出夫・谷澤伸

私たち十一回生は、卒業してはや五十年になります。皆様の身边にも様々な出来事があるの事と思ひんでいる方も多いのではないかと推察いたします。

そこで、同期会を開き、旧交を温めると共に、今後の生活の糧となるような会にしたいと願っております。お忙しい中とは思いますが、奮ってご参加下さいますようご案内申し上げます。

十四回生の皆様へ

日時 平成二十八年七月九日

午後一時より

会場 サイプレスガーデンホテル

住所 熱田区金山町一―九―八

電話 (代)六七九―一六六一

発起人代表 洲崎和也・福島義広

二十一回生の皆様へ

日時 平成二十八年六月十二日

午後一時より

会場 サイプレスガーデンホテル

住所 熱田区金山町一―九―八

電話 (代)六七九―一六六一

発起人代表 佐々木博

二十六回生の皆様へ

日時 平成二十八年九月十七日

午後五時より

会場 レセプションハウス

名古屋通信会館

住所 西区牛島町五―六

電話 五五一―五一一(代表)

発起人代表 伊藤淳・近藤かをり

同期会の開催に関して

同窓会では、通信費・会員名簿に記載されている方の宛名ラベルの費用は援助しております。ぜひ、同期会開催時には利用してください。連絡先

〒456―0054

熱田区千年1―17―71

熱田高校同窓会事務局 学校幹事



5 年(平成 27 年)8 月 18 日(火曜日) 市 20

在校生の演奏で校歌を合唱する卒業生たち＝いずれも名古屋市熱田区の熱田高で



熱田高の入学 1 期生 母校へ

名古屋市長 佐々木 元彦 氏(左)が、戦後 70 年を記念し、熱田空襲で犠牲となった愛知時計電機

田高校を十七日、戦後間もなく入学の一期生らが訪れた。同校は、かつて戦間期などを生産し熱田空襲で犠牲となった愛知時計電機

の跡地に開校。一期生らは戦争や戦後復興を「」として初めて現役生との交流を企画した。

創立は一九五三(昭和二十八)年、愛知の休みの生徒百人が体育館に参集。一期生の山田稔さん(右)同市の中区は皆を前に、当時の運動場のありさまを回顧。コンクリートがけの上の薄く土しになるがれきを取りをかぶせてあり、雨の除いた。「自分たちで

歴代の卒業アルバムを見て、思い出にひたる卒業生たち

三年の山下源三さん(左)熱田区は「戦争の歴史の上に築かれた伝統を受け継いでいた」と話した。(立石智保)

県内版

ご来賓の皆様方



「思い出の記」山田稔氏(1 回卒)



茶華道部による呈茶

愛知時計様より借用資料
九式艦上爆撃機(1937 年より)

同窓会

★県立熱田高校ホームカミングデー「戦後 70 年を迎えて母校を語ろう」17 日(月)後 3:40、名古屋市熱田区千代一、熱田高校。熱田空襲のがれき撤去など、グラウンド整備に携わった草創期の同窓生を迎えて語り合う。スライド観賞や校内見学なども予定。同窓会副会長・万前さん 090(8739)5927

受付(PTA 役員の皆様)



司会の生徒



ホームカミングデーの記録

- 同窓会役員
- 会 長 佐々木元彦 (1回卒)
- 副会長 波田 忠 (1回卒)
- 中野 道孝 (2回卒)
- 岩淵 正憲 (3回卒)
- 田中 省三 (4回卒)
- 西田 和子 (5回卒)
- 道清 吉美 (6回卒)
- 小林 勝治 (7回卒)
- 井上 亜夫 (8回卒)
- 武藤 史子 (9回卒)
- 中村日出夫 (11回卒)
- 真木 伸一 (13回卒)
- 福島 義広 (14回卒)
- 石田 直城 (15回卒)
- 伊藤 武博 (16回卒)
- 柿崎 賢一 (17回卒)
- 山口 直彦 (18回卒)
- 木村 隆秀 (19回卒)
- 佐々木 博 (21回卒)
- 奥田 隆庸 (25回卒)
- 近藤かをり (26回卒)
- 野崎 時資 (29回卒)
- 山田 太郎 (31回卒)
- 樺山 泰久 (36回卒)
- 高橋 孝次 (定8回卒)
- 事務局長 万前 秀男 (6回卒)
- 書 記 谷澤 伸 (11回卒)
- 小倉美津夫 (16回卒)
- 畑中 正憲 (26回卒)
- 会 計 神谷 和雄 (15回卒)
- 後藤 文方 (定2回卒)
- 監 査 恒川 良三 (19回卒)
- 森 久勝 (定1回卒)
- 学校幹事☆ 青木 宏憲 (23回卒)
- 杉藤 充彦 (20回卒)
- 鈴木矢代子 (21回卒)
- 川辺 浩 (23回卒)
- 野村 弘昭 (42回卒)
- 定 愛知 輝樹 (46回卒)
- 学校幹事=卒業生の熱田高校勤務者
- ☆印=代表幹事
- 印=新規の役員

平成 28 年度 第 1 回 同窓会役員会 議事録

日 時：平成 2 8 年 5 月 2 7 日(金) 午後 6 時 3 0 分～8 時 1 0 分

会 場：名古屋国際ホテル

出席役員 3 0 名

1 号議案 平成 2 7 年度 会計収支決算報告・監査結果 (審議)

2 号議案 『同窓会報 1 4 号』 発刊内容に関して

3 号議案 愛知県立熱田高等学校創立 6 5 周年に関して

総会 開催日時 2 9 年 1 1 月 1 2 日 (日)・会員名簿の発刊

その他

ア. 熱田高校校庭の「人工芝化」計画について(報告)

イ. 関東支部の発足に関して



平成27年度 愛知県立熱田高等学校同窓会会計収支決算

(平成27年4月1日から 平成28年3月23日まで)

収入の部		円
前年度繰越金		3,488,166
入会金 全日制 61回生	316名×@6,000円	1,896,000
〃 〃 定時制 48回生	14名×@6,000円	84,000
〃 〃 定時制 47回3年卒	3名×@6,000円	18,000
普通預金 利息 2件 (8月分・2月分)		383
合 計		5,486,549 ーa
支出の部		
会員データ 管理費 2件		63,060
寄 贈 全日制60回・定時制47回 ミニ会員名簿		108,864
〃 卒業証書入 全日・定時ホルダー		170,000
助成金 定時制通信制教育振興会費 5口×@2000		10,000
〃 同期会 (定時・2・6・14・19・29・31回生)		232,603
〃 陸上部 幟作成		35,000
〃 13回生高野史枝 映画『厨房男子』		20,000
〃 54回生荒川 諒 演奏会 (ドラム)		10,800
事業費 会報 1 3号製作費 一式		204,924
ホームカミングデーに関して		659,396
会議費 4件 (役員会・幹事会)		278,715
通信費 8件		32,770
事務用品 4件		7,832
雑 費 8 件 (謝礼2件・図書券4件)		30,888
		1,864,852 ーb
次年度繰越金 (名古屋銀行六番町支店普通預金残高 a-b)		3,621,697
積立金として (千年郵便局定期預金)		5,000,000
〃 (千年郵便局定期預金の解約利息)		1,255,000

平成 2 8 年 3 月 25 日、上記のとおり会計報告をします。 会計代表 神谷和雄

執行担当者 万前秀男 青木宏憲

平成 2 7 年度会計における証拠書類並びに会計帳簿を精査したところ、正確に処理されていることを認めます。

平成 2 8 年 3 月 30 日 監査代表 恒川良三

平成 28 年度 教職員 異動

退職者・転出者及び転入者一覧

○退職者（敬称略）
（全日制）
山田三枝子 教諭
（定時制）
市川 昌平 教諭

○転出職員（敬称略・転出先） （全日制）

小林 整次 校長（教職員課）
佐藤 章 教頭（旭陵高）
早瀬 浩文 教諭（海翔高）
星野 孝之 教諭（津島高）
安井 正史 教諭（明和高）
石井 光 教諭（旭陵高）
西田知代子 教諭（愛知商業高）
小野 珠季 主事（旭丘高）

○転入職員（敬称略・転入元） （全日制）

鈴木 洋平 教諭（一宮北高）
北角 尚治 教諭（日進西高）
鈴木 達也 教頭（瀬戸窯業高）
青山 信夫 教諭（名古屋豊学校）
高岸 悠太 教諭（岡崎商業高）
大野 裕稔 教諭（新規採用）
横井 美月 教諭（新規採用）
大野 裕稔 教諭（新規採用）
伊藤 真帆 教諭（新規採用）
鈴木 桜子 教諭（新規採用）
（定時制）
日野 朋之 教諭（南陽高）
加藤 友和 教諭（知立東高）
堀田 明裕 教諭（豊丘高）
山口 景士 教諭（新規採用）

事務局だより

会員名簿二〇一七年版のご案内

創立六十周年版会員名簿（平成 24 年版）は完売しております。ご購入済の方は「会員名簿」の管理につきましては個人情報流出しないように廃棄処分が終了するまで、ご留意いただきたくお願い申し上げます。

創立六十五年事業の一環として会員名簿の更新を図る予定であります。会員の皆様方には購入希望の詳細を明年度ご案内申し上げます。

次に、業者等からの名簿の問い合わせ（進路先・現住所・電話等）には同窓会は一切お答えしておりません。母校職員を装って、電話で進学先や現住所、電話番号などを聞きだす者がいるようですが、熱田高校及び同窓会ではそのようなことは一切しておりません。

会員名簿にしましては、同窓会では（株）廣済堂に依頼しております。それ以外の業者は、母校及び同窓会とは一切関係ありませんのでご注意ください。もし、ご不審な点がありましたら、事務局又は（株）廣済堂までご連絡ください。

なお、会員名簿は同窓会員で予約者のみが購入できます。他には一切販売しておりません。

愛知県立熱田高等学校 創立 65 周年

記念祝賀総会のご案内

日時 平成 29 年 11 月 12 日

日曜日 午後より

会場 名古屋国際ホテル二階

中区錦三―二三―三

代 九六一―三二二一

催事 詳細は検討中

計 報

竹田 總子	教諭	平 27	・ 6	・ 30
野澤 正紀	教諭	平 28	・ 1	・ 21
下出 義朗	一回生	平 25	・ 11	・ 29
荒川 基彦	二回生	平 26	・ 7	・ 20
伊藤 時三	三回生	平 28	・ 9	・ 23
中村紀久子	四回生	平 26	・ 9	・ 2
山下 護祐	四回生	平 25	・ 9	・ 2
日下部けい子	四回生	平 27	・ 6	・ 16
鈴木かつ子	七回生	平 25	・ 2	・ 20
井本 喜一	八回生	平 26	・ 11	・ 14
鬼頭美恵子	九回生	平 26	・ 12	・ 18
棚橋 明夫	十回生	平 26	・ 1	・ 5
松波 俊雄	十一回生	平 25	・ 12	・ 31
近藤みゆき	二九回生	平 28	・ 4	・ 27

クラス幹事の皆様へ

訃報は悲しい出来事ですが、事務局まで葉書でご連絡ください。（係より）



堂章のみどりは、楠の葉を型どった三本の木々に、本校が教育目標とする品格ある人間、気力ある生活人、健康なる日本人を、また、全体にはきよき森を表わして、心の啓示とし、その育成と生々発展とをこい願っている。

編集後記

二〇一六年五月二十七日、オバマ米大統領が初めて被爆地の広島平和公園を訪れ、原爆慰霊碑前で「核なき世界」を主導する決意を示しました。

現実的にはともかく、米大統領がご自分の言葉で、丁寧に理想を語るその姿に感銘を受けた人は少なくないでしょう。これからもいつまでも争いの無い平和な国であり続けるようお願いいたします。

卒業生の皆さん、卒業してしまふと学校との関わりは、クラス会・部活動の O B 会・同期会などに限定されてしましますが、この会報も学校や卒業生をつなぐ一つの手段に育てていきたいものです。
次号 15 号は明年四月末発行を予定しております。

編集委員 谷沢伸・万前秀男

柿崎賢一・畑中正憲

題字 初代書道教諭 名郷紫山